

株式会社マルマエ

2025年8月期

第3四半期決算 補足資料 及び中期事業計画策定資料

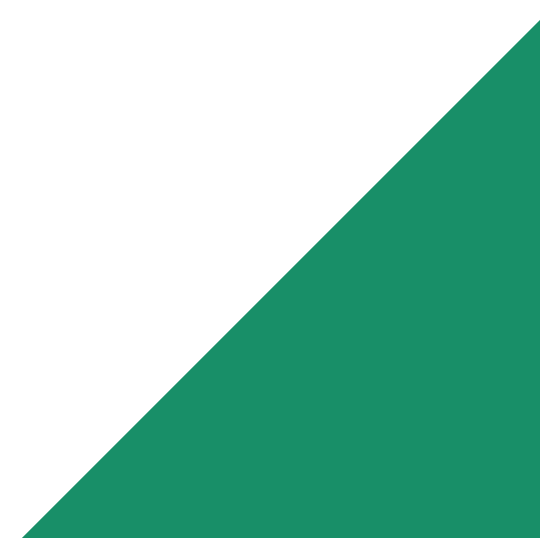
2025年7月11日

道を究め、未知に挑む。

marumae

総合力で未来を拓く

半導体・FPD製造装置 真空パーツメーカー



1. 決算概要

PL分析

PL

	2024年8月期 第3四半期累計期間 (単体)		2025年8月期 第3四半期累計期間 (連結)		
	金額 (百万円)	割合 (%)	金額 (百万円)	割合 (%)	対前年同期 増減率 (%)
売上高	3,344	100.0	7,269	100.0	117.3
売上原価	2,820	84.3	4,917	67.7	74.4
売上総利益	524	15.7	2,351	32.3	348.3
販売管理費	500	15.0	901	12.4	80.1
営業利益	24	0.7	1,450	19.9	—
経常利益	△58	△1.7	1,338	18.4	—
特別損益	0	0.0	0	0.0	0.0
親会社株主に 帰属する 当期純利益※1	△51	△1.5	939	12.9	—
EPS (円)	△4.05	—	74.25	—	—

※1・・・2024年8月期は「当期純利益」

※対前年同期増減率は2024年8月期の個別業績に対する数値を参考値として記載

Point

売上高 ●**7,269**百万円
(セグメント別の詳細はP5～)

売上原価 ●材料費：**1,494**百万円
●外注加工費：**833**百万円
●労務費：**1,430**百万円
●減価償却費：**673**百万円

販売管理費 ●販管人件費：**431**百万円
●のれん償却額：**51**百万円
●支払手数料：**117**百万円
※うち株式取得費用83百万円

営業外費用 ●支払利息：**46**百万円
●支払手数料：**60**百万円
※主にMAに係る費用

1. 決算概要

B/S分析

B/S

	(百万円)	
	2024年8月期 会計年度末 (単体)	2025年8月期 第3四半期末 (連結)
流動資産	5,572	10,577
現金及び預金	3,028	4,100
売上債権 (受取手形・売掛金・電子記録債権)	1,591	3,670
固定資産	5,891	14,456
土地・建物及び構築物（純額）	2,556	4,586
機械装置及び運搬具（純額）	2,646	3,983
のれん	—	4,242
流動負債	1,348	4,753
有利子負債（短期）※	596	1,559
固定負債	2,952	13,092
長期借入金	2,863	12,512
負債合計	4,300	17,846
純資産合計	7,163	7,187
総資産	11,464	25,034

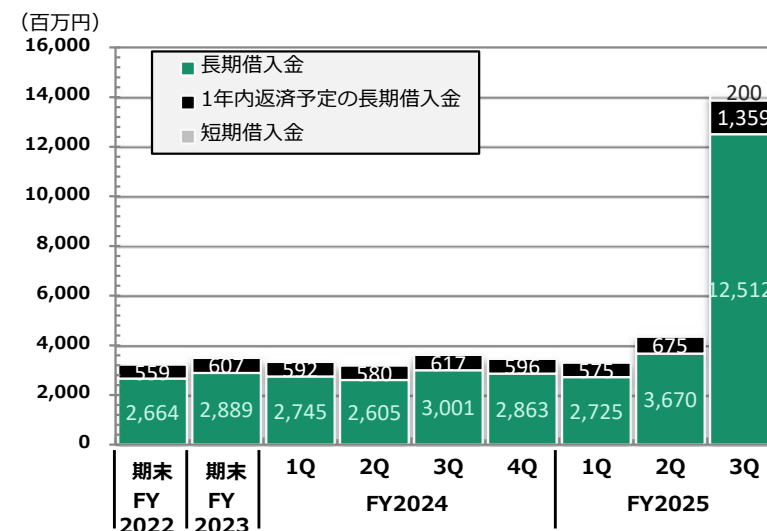
※ 有利子負債（短期）：短期借入金 + 1年内返済予定の長期借入金

Point

資産 25,034百万円
・有形固定資産：9,535百万円
・のれん：4,242百万円
・現金及び預金：4,100百万円

負債 17,846百万円
・長期借入金：12,512百万円
・買掛金：1,447百万円

純資産 7,187百万円
・利益剰余金：4,449百万円
・自己資本比率
62.5%(単体) → 28.7%(連結)



2. セグメント情報

セグメント分類



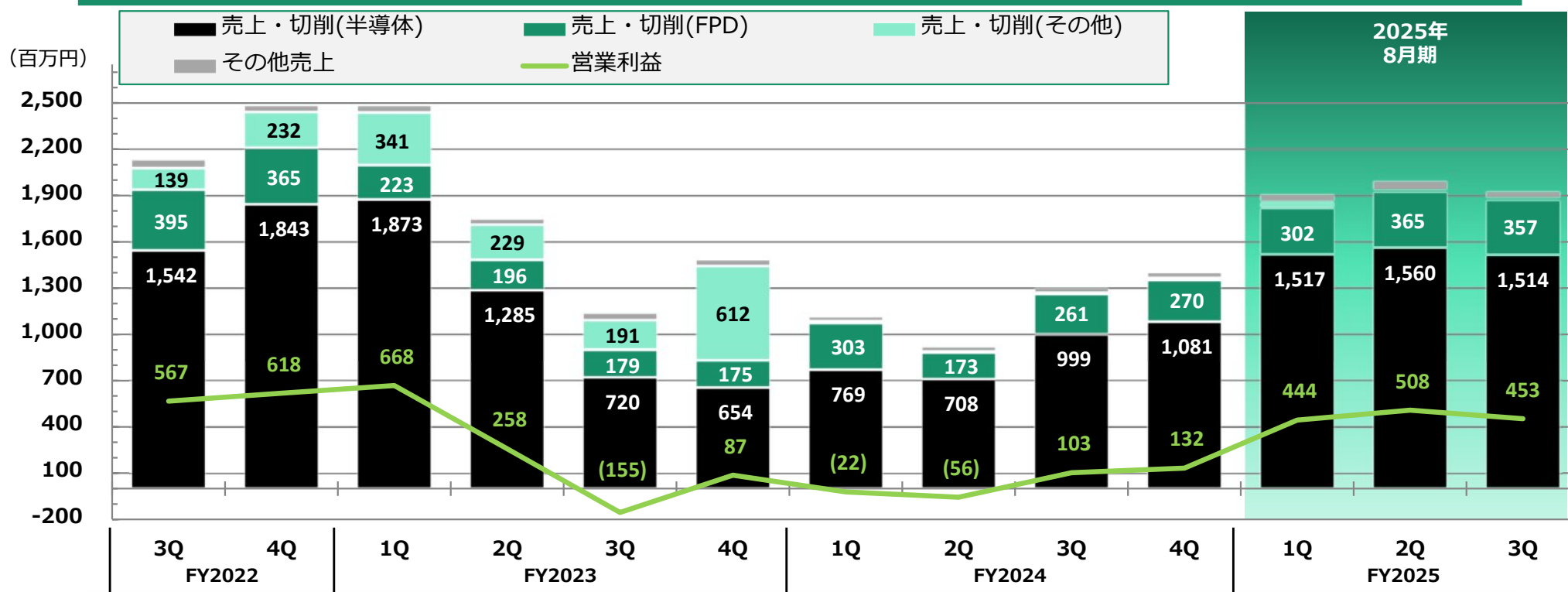
- マルマエ 事業
- 半導体・FPD・その他



- KMAC (KMアルミニウム) 事業
- IT器材・半導体装置部材・基礎素材

3. セグメント別概況

四半期業績の推移（精密部品事業）



Point

半導体分野

4,591百万円（対前年同期：85.3%増）
 ・一部製品が品質問題で4月～8月停滞（3千万/月）

FPD分野

1,026百万円（対前年同期：39.1%増）
 ・OLED向けが好調も、投資計画は若干後ろ倒し傾向

その他分野

58百万円（対前年同期：103.1%増）
 ・生産能力に余力なく新たな動きなし

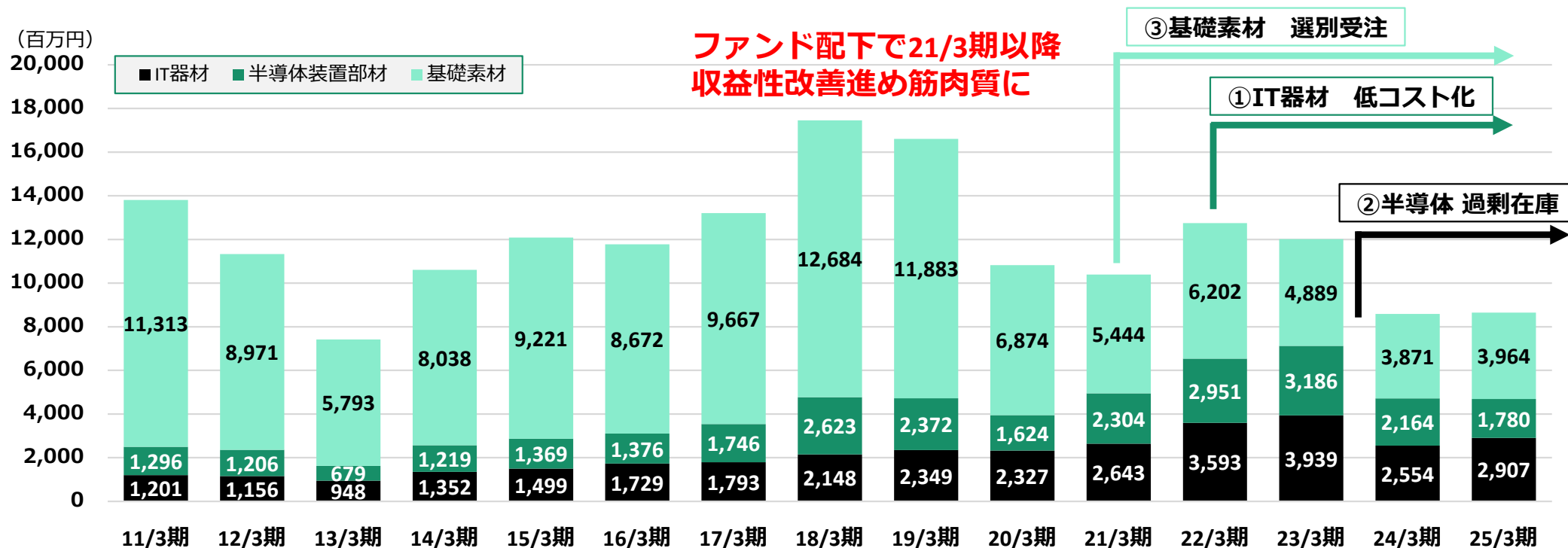
①売上高は、半導体分野横ばいへ

②損益面は稼働率改善等で改善継続

- ・前期末比で受注損失引当金等は40百万円減少（改善）
- ・設備投資と人員採用をこなし増益

3. セグメント別概況

業績推移（機能材料事業）



Point

IT 器材

- 自社精製強化で競争力強化** 高収益
- 主にターゲット材向け消耗材
 - 22/3期以降の低コスト活動で高利益率化

半導体 装置部材

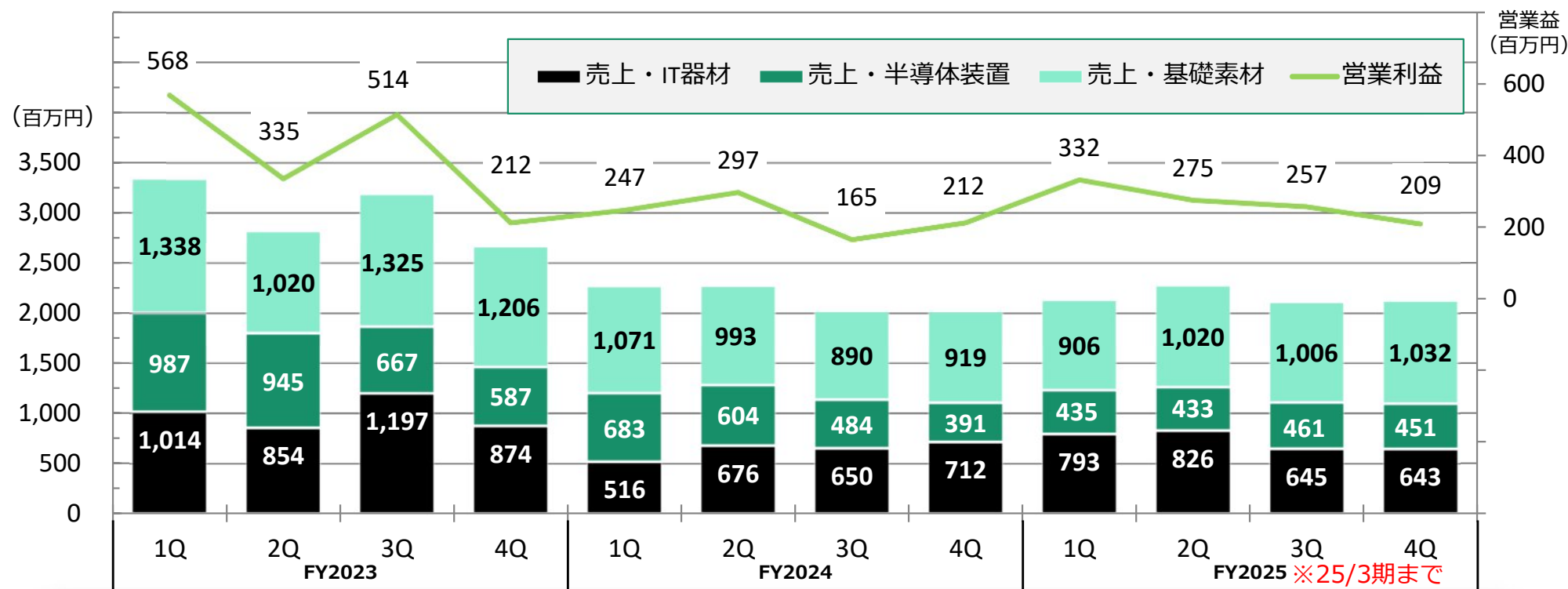
- WFE市場に連動** 高収益
- 主に半導体エッチング装置の真空チャンバー
 - 24/3期以降は客先過剰在庫の影響続く

基礎 素材

- 戦略的に低付加価値受注を低減** 基盤
- 現在は主に電解コンデンサ用やハードディスク用高純度アルミ。アルミスラブ材の小口販売も行う
 - 2021年以降の市況停滞期に選別受注本格化
 - 限界利益率は35%程度にとどまるが21/3期以前に比べ大幅改善

3. セグメント別概況

四半期業績の推移（機能材料事業）



Point

IT器材

512百万円

- ・ 消耗品は堅調も北米IDM投資停滞が重荷

半導体 装置部材

284百万円

- ・ エッチャー向けチャンバーの在庫解消待ち

基礎 素材

628百万円

- ・ 電解コンデンサ需要安定・HDD向け好調

- ① 売上高は、半導体設備投資停滞に連動
- ② 損益面は高付加価値案件増加で改善傾向顕著
 - ・ 4月5月の2か月間で営業益2億円程度と改善
 - ・ 高収益なIT器材と半導体装置部材の影響大

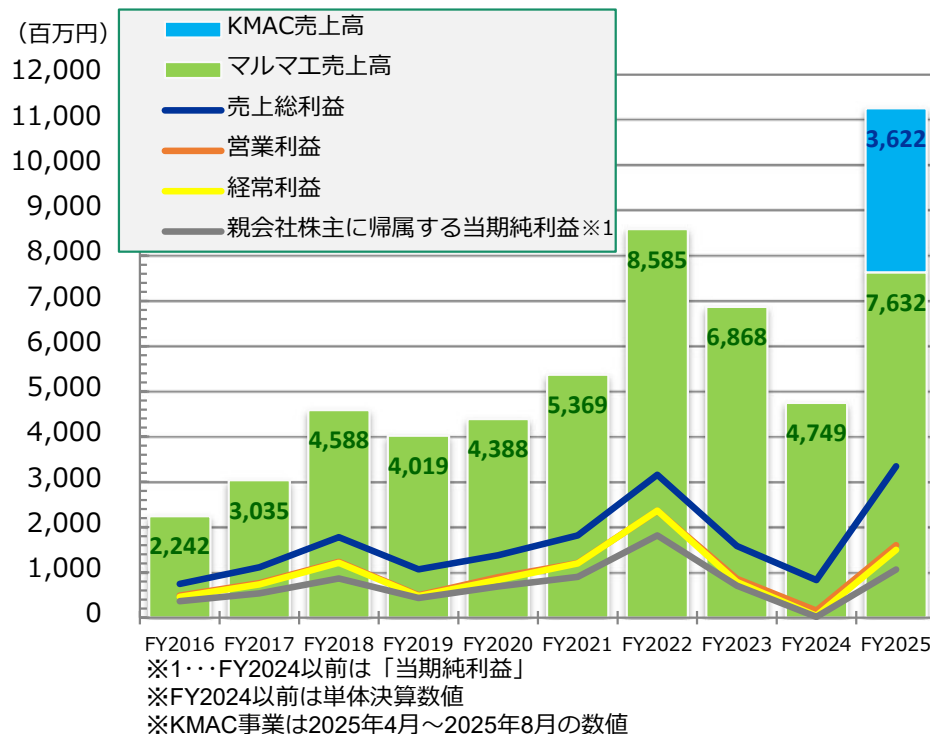
4. 2025年8月期の業績予想

当期の見通し（損益・設備投資・固定費要因）

業績予想

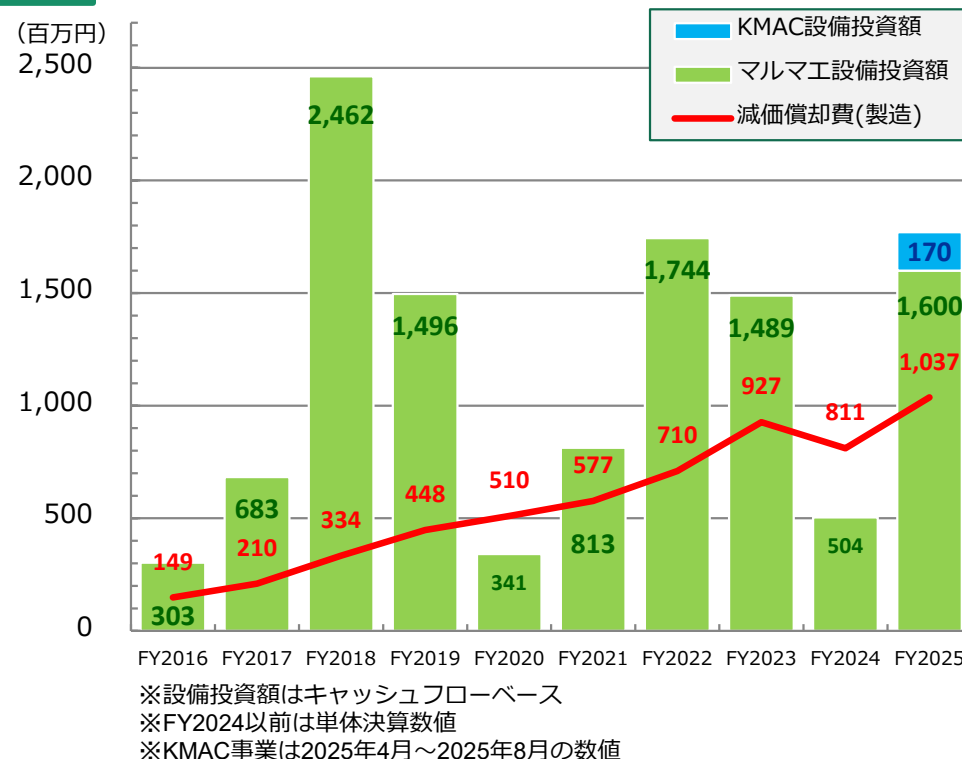
2025年8月期 連結業績予想	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	親会社株主 に帰属する 当期純利益 (百万円)	1株当たり 純利益(円)
通期	11,254	1,900	1,714	1,265	99.93

当第3四半期より連結決算開始。当期はKMAC 5 か月分のPL連結



Point

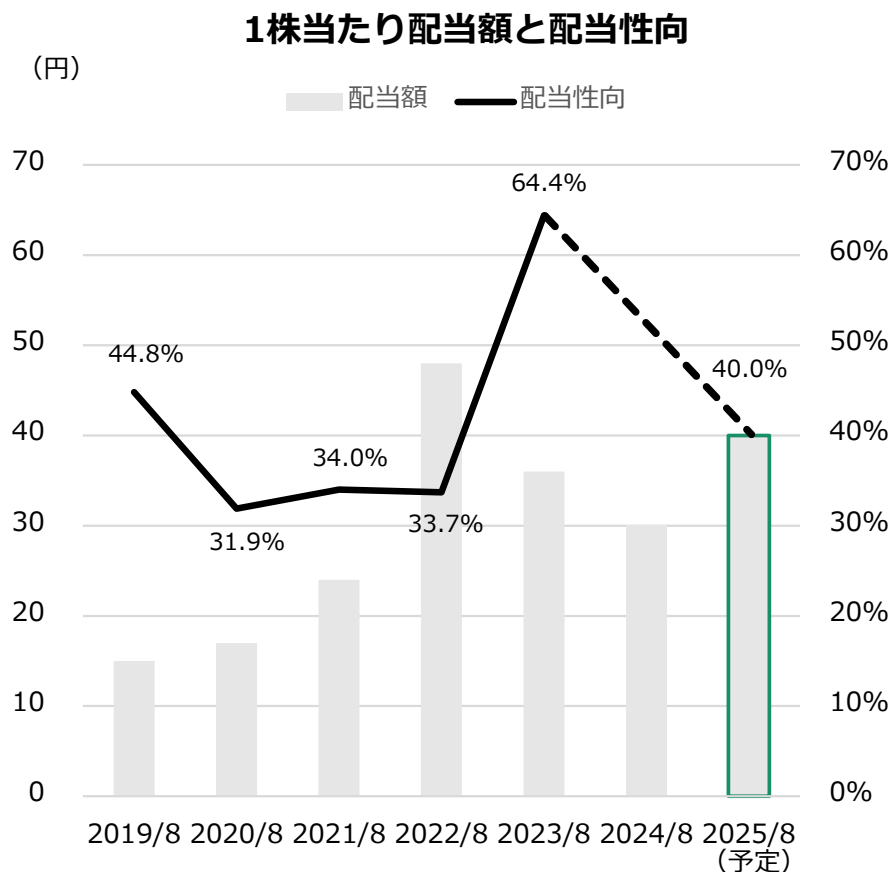
- ✓KMAC連結効果 5 か月分
- ✓一時的費用営業内1.1億円 営業外0.6億
- ✓当期のれん等償却1.2億 金利0.8億



4. 2025年8月期の業績予想

株主還元

配当等 実績と予定



配当政策

- 中期事業計画で35%以上の配当性向を予定
- 最低配当額を年20円(半期10円)の安定配当化

株主優待

- 半年以上継続保有の株主様へ1,000円分のオリジナルQuoカード提供

当期配当

- 2025年8月期は上期15円実績 期末25円の合計40円/株の配当予定に変更
- 消耗品受注が好調なことや、KMACの連結に伴う収益性の向上を鑑み増配
- 企業成長に向けた投資と適度な資本効率を目指す配当政策を行っていく方針

5. 中期事業計画

新中期事業計画

KMAC連結を反映した新中計策定

5. 中期事業計画

従来数値計画

中期事業計画 Innovation2026

数値目標 ▲

売上高 **120**億円

営業益 **36**億円

ROIC ▲

資産ベース
ROIC **20%**

負債ベース
ROIC **18%**

配当性向 ▲

配当性向 **35%**
以上目標

最低配当額 **年間
20円※**

※半期最低10円 また、通期最終損益赤字時は再検討

5. 中期事業計画

旧計画（単体）に対しての進捗状況

■2025年8月期第3四半期中の時点では、市場環境が想定よりも悪く2026年8月期の目標に対して、進捗は遅れ気味

■従来中計達成の前提条件

- ①2022年水準の市場環境（中国向け除く）
- ②新規顧客向けで最終的に20件のPOR獲得（2025年8月期末で15件目標）
- ③マルマエの生産能力の拡大（人員含む）

■前提条件に対する状況

- ①→中国向けを除くとIDMの設備投資停滞や米中間のデカップリング要因で停滞
- ②→2025年5月末で13品種のPOR獲得。うち9品種の量産受注開始（概ね順調）
- ③→需要に合わせて生産能力を增強するため未達（一部設備と人員採用が途上）

5. 中期事業計画

新数値計画（連結）※2025年7月11日取締役会承認

中期事業計画 Fusion2028

数値目標
（連結）



売上高 **250**億円

営業益 **56**億円

営業利益率
（セグメント別）



精密部品事業 **30**%

機能材料事業 **18**%

ROIC



連結ROIC目標 **15**%

配当性向

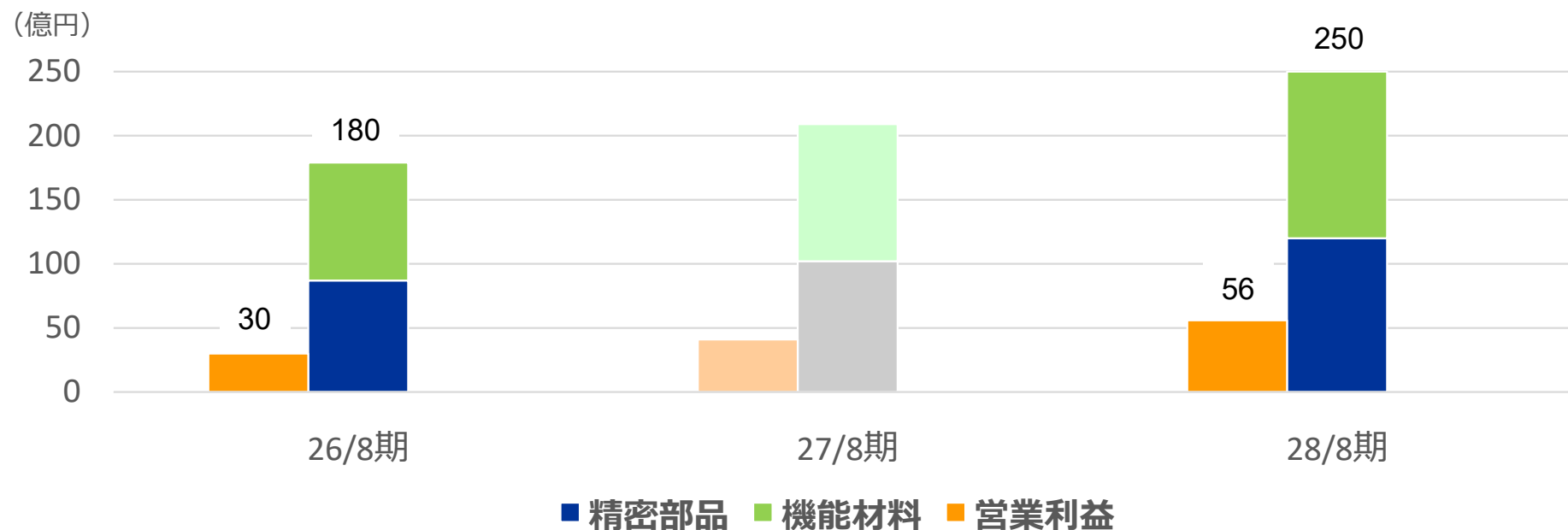


配当性向 **35**%
以上目標

最低配当額 **30**円※
年間

5. 中期事業計画

セグメント別目標



決算期	26/8期	28/8期
売上高 (精密部品)	87億円	120億円
営業利益 (精密部品)	21.5億円	36億円
売上高 (機能材料)	93億円	130億円
営業利益 (機能材料)	11.5億円	23億円
営業費用 (共通)	3億円	3億円

5. 中期事業計画

目標達成への戦略（精密部品セグメント）

■市場環境前提

中国以外の市場環境で2022年の水準を目標達成の前提とするが、北米IDMの回復は前提としない。NANDを含むメモリメーカーの設備投資回復は前提に含む

前提	WFE成長率	25年 + 0 %※	26年 + 15%	27年 + 6%	28年 + 13%
中国以外	WFE成長率	25年 + 8 %	26年 + 26%	27年 + 11%	28年 + 14%

■現在の環境等

- ①WFEは相応に戻っているように見えるが、大部分が中国レガシー向けの増加
- ②マルマエは半導体への本格参入から13年程度なのでレガシーの恩恵少ない
- ③消耗品は、先端からレガシー、ロジックからメモリまで比較的幅広く受注

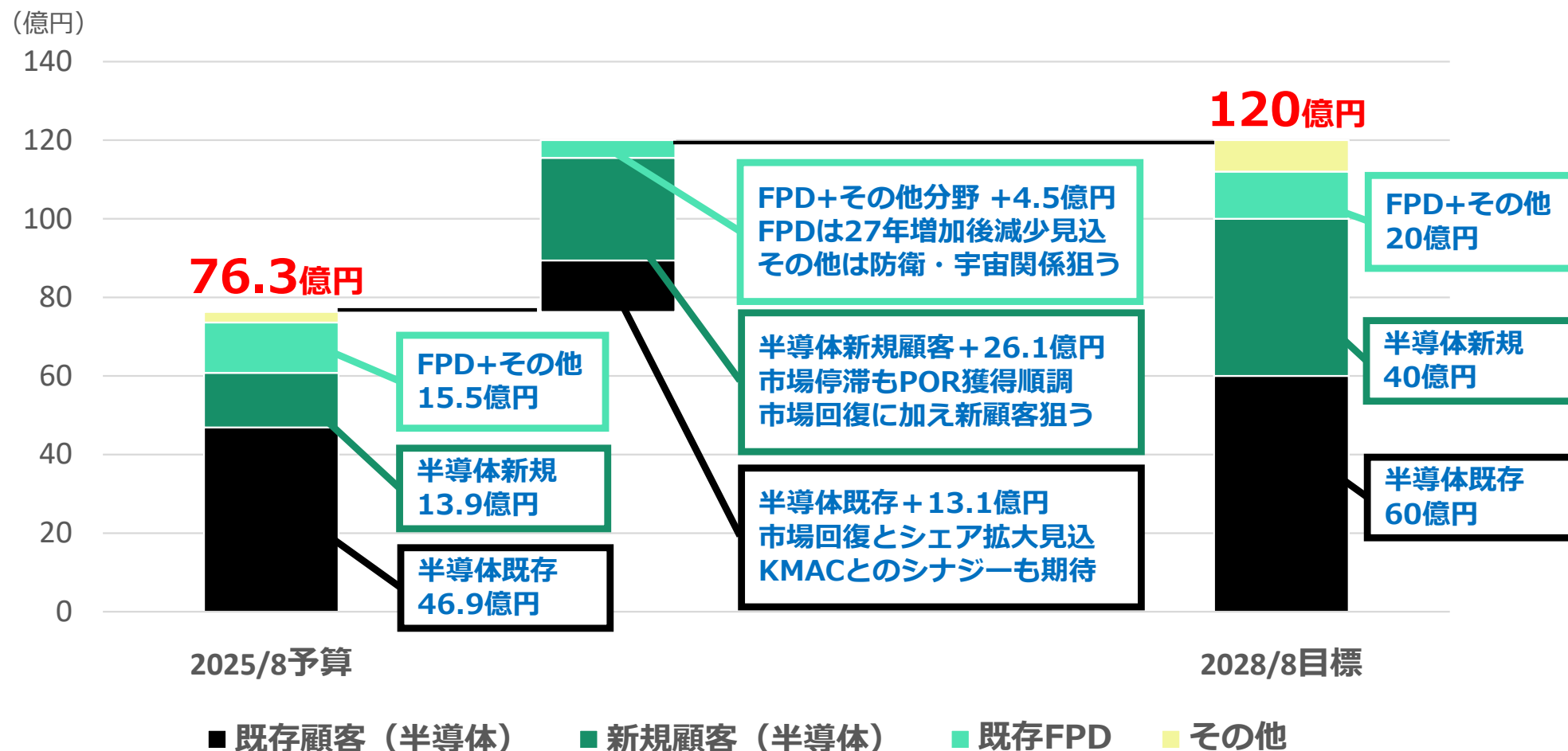
■中計目標達成に向けた戦略

- ①半導体分野のシェア向上に向けての試作能力向上と、新顧客POR獲得数30件目標
- ②半導体分野でアルミ以外の新素材の量産化（すでに試作と客先評価で一定の成果）
- ③その他分野で、防衛省関連の受注収益化。取引を持つ既存協力企業との連携図る
- ④出水事業所の空きスペース活用で工場新設は避け、設備投資は機械設備に集中

※ CY2025年WFE前提 102bnUS\$ 新規装置のみの規模

5. 中期事業計画

精密部品事業（マルマエ）



新顧客伸びるも半導体市場の停滞で単体の目標達成を先送り
その他分野では協力企業と協調し防衛省関連部品の受注を計画

5. 中期事業計画

目標達成への戦略（機能材料セグメント）

■市場環境前提

市場環境およびWFEの前提は精密部品と同様

■現在の環境等

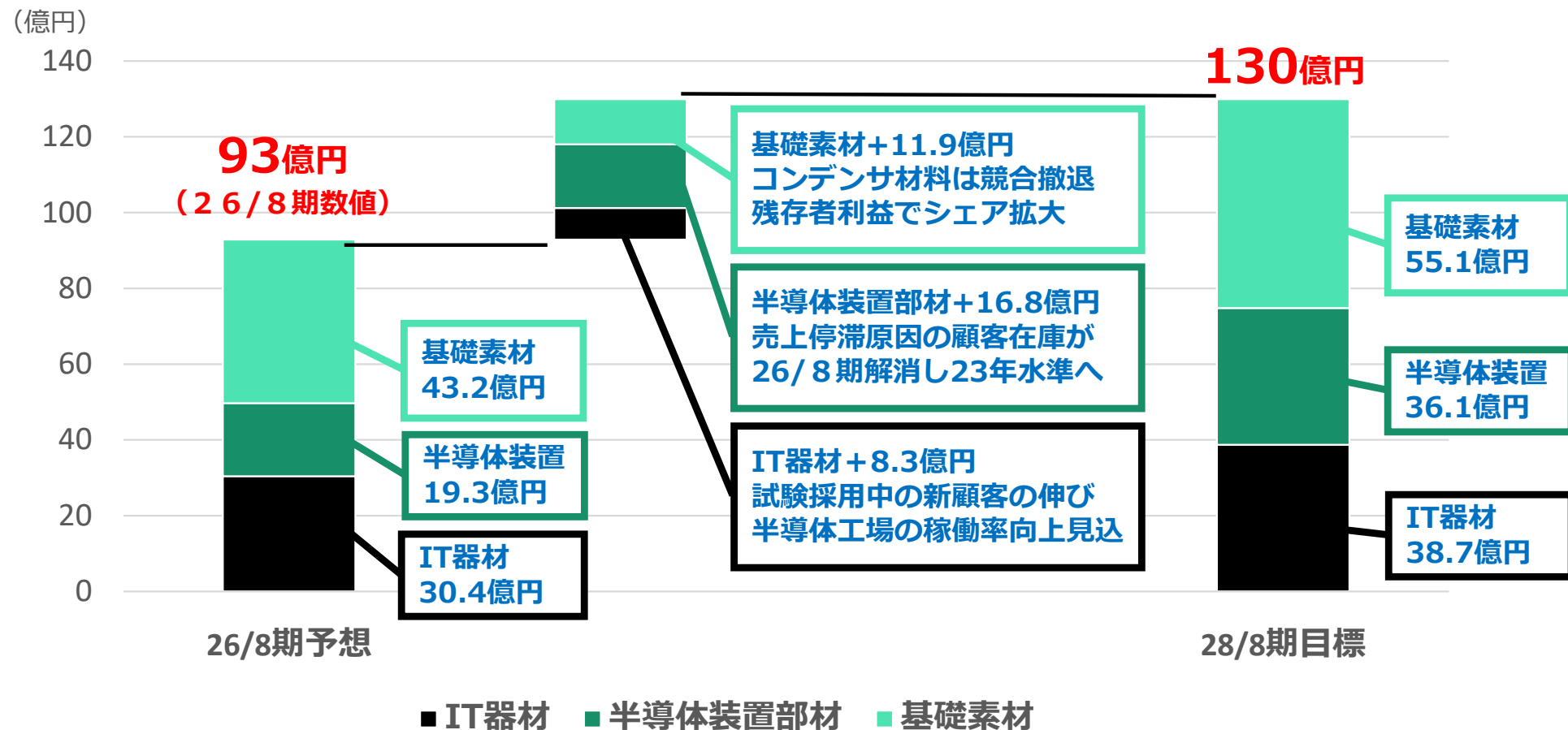
- ①IT器材は、ターゲット顧客からの受注が不安定。アルマイトは最終顧客投資が停滞
- ②半導体装置部材は、2023年からの客先在庫の影響続くも、新顧客開拓中
- ③基礎素材は、電解コンデンサやHDDの素材多く自動車やサーバーの影響受ける
小口素材の販売は液晶設備投資の低迷に伴い停滞傾向

■中計目標達成に向けた戦略

- ①IT器材では、評価中の顧客への価格戦略を含めた拡販活動を行い量産化し、一社あたりの依存度を下げていく。他、マルマエと協調した加工能力向上で売上拡大
- ②半導体装置部材では、客先の過剰在庫解消が26/2の見込。あとは市場連動程度マルマエと協調し、加工による付加価値向上を行う
- ③基礎素材は競合の事業撤退もありシェア高まるが、海外競合見据え生産量も維持できる価格戦略をとる。小口素材は販売提携先拡げる戦略

5. 中期事業計画

機能材料事業 (KMAC)

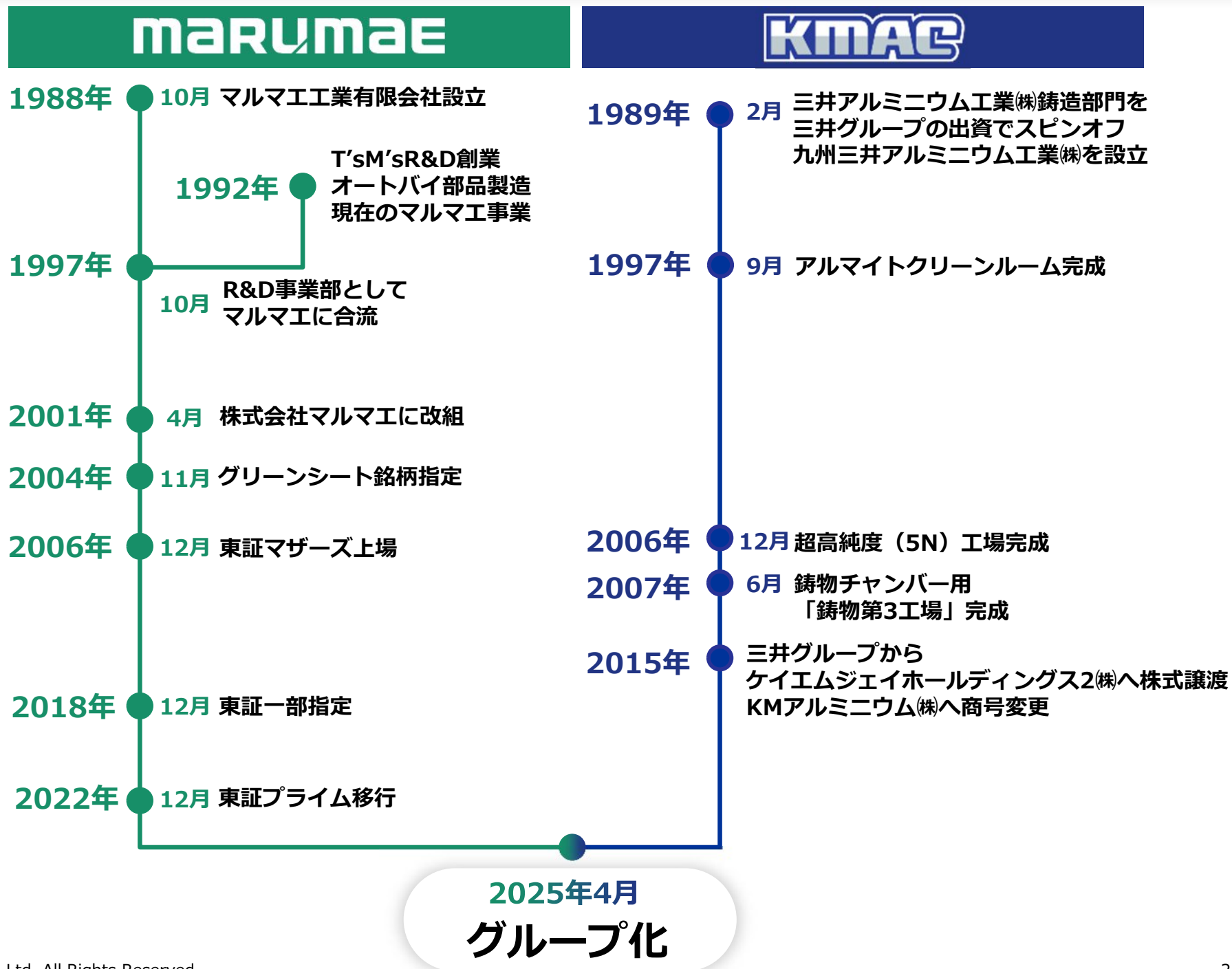


半導体装置部材セグメントは客先在庫解消を26/2前後と見込む。在庫解消後は、足元の需要水準でも四半期3億程度の上乗せ。新規顧客含め28/8期までに23/3期のピーク（約32億）超え狙う
IT器材は価格競争力あり、試験材提供済みの新顧客複数社で順次拡大見込む
基礎素材は競合撤退分の上積みを見込む

私達は持続可能な経営を念頭に
技術で社会貢献できる企業を目指します

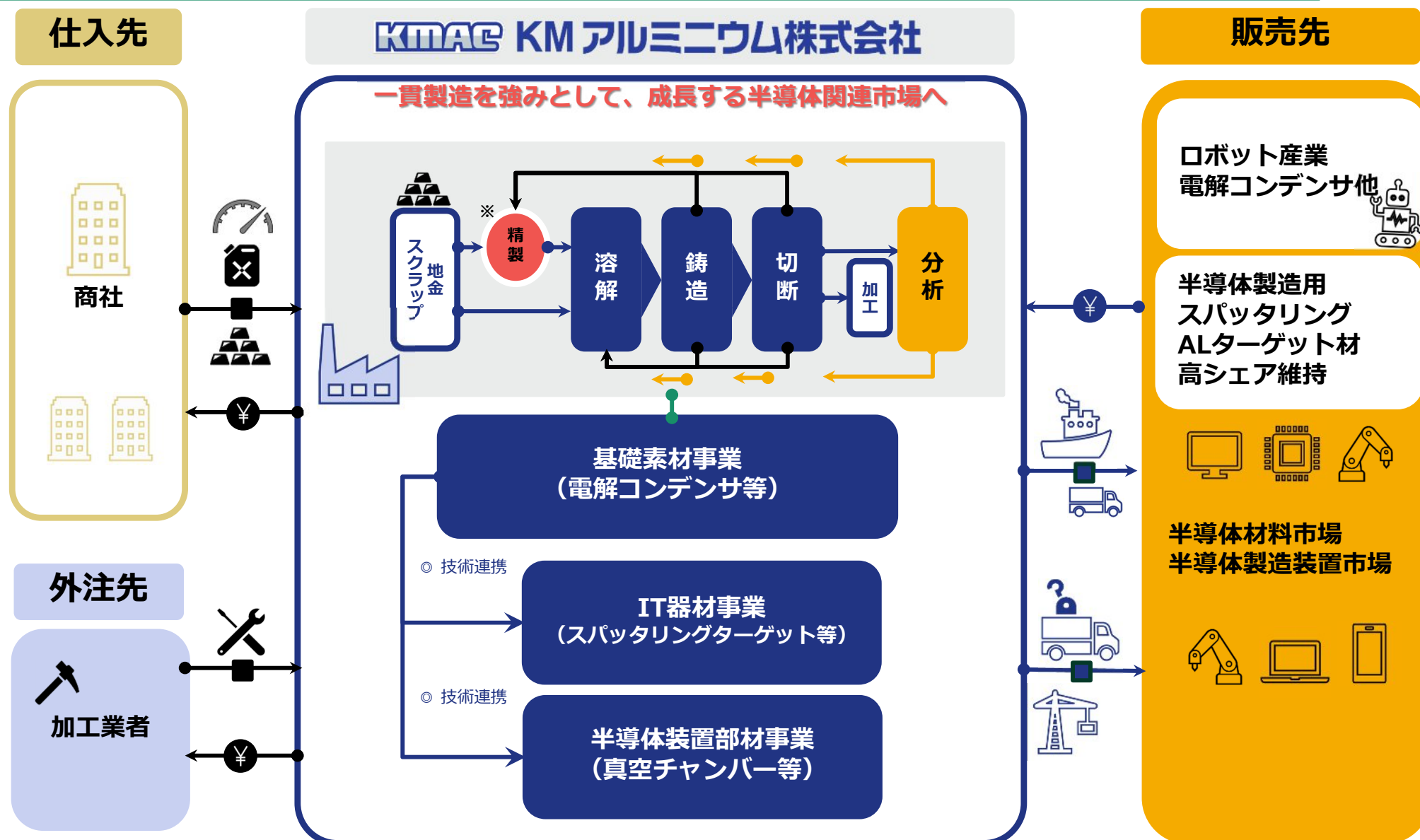
Company Profile

沿革



機能材料（KMAC）事業モデル

永年の一貫製造で培われた総合力・シナジーを背景に、成長する半導体関連市場へ



※精製（純化）技術・・・偏析法的一种であるペシネー法により、アルミニウムの純度を上げる世界でも有数の技術。

機能材料（KMAC）事業モデル

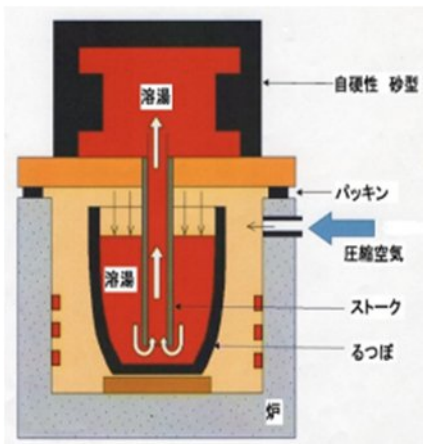
永年の一貫製造で培われた総合力・シナジーを背景に、成長する半導体関連市場へ

半導体向け真空チャンバー当社の優位性

背景

- 装置大型化とチャンバー搭載数増加
- 一般的に切削チャンバーは歩留り低くコスト高

低圧鑄造技術を駆使し
低コスト且つ高品質の鑄物製品供給



【低圧鑄造の仕組み】

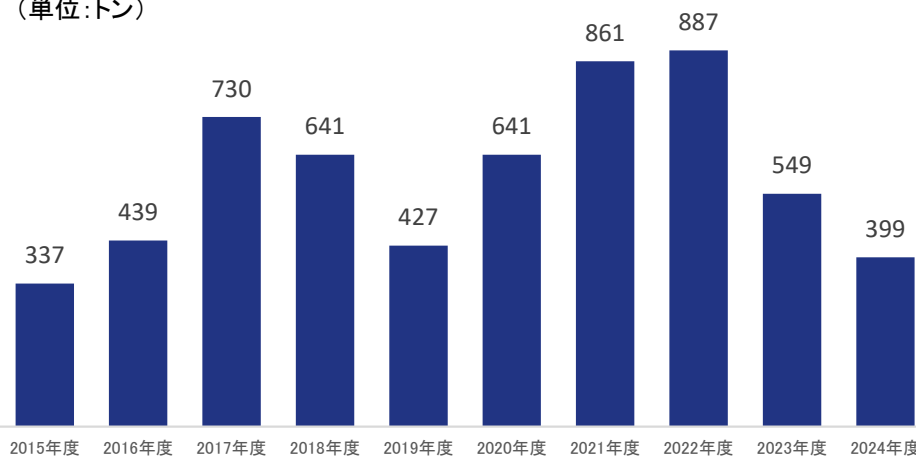
- ① 素材からの一貫製造を行っているため大型溶解炉・鑄造炉等の設備・インフラ保有
- ② 成分分析ノウハウを活用し、鑄物用合金を開発
- ③ 素材製造で培った溶湯管理技術

技術

- KMACでは、400kg以上の大型低圧鑄物製品の提供が可能！！

KMAC真空チャンバー販売量推移

(単位:トン)



KMAC

近年は在庫調整影響受け
一時的な減少中
今後は、半導体装置需要増に加え、
低コスト且つ高品位の強みを活かし
新規顧客拡販中

精密部品（マルマエ）事業モデル

顧客の主要工程・主要製品

当社製品は半導体・FPD製造装置の心臓部を支えています



主要工程（半導体）	エッチング CVD コータ/デベロッパ 洗浄
（FPD）	エッチング CVD コータ/デベロッパ スパッタ 洗浄 イオン注入
主要製品	真空チャンバー シャワーヘッド 排気板 静電チャック ヒーター類 上部電極 ターゲット 搬送系パーツ類 各種真空パーツ類

※画像はイメージです

参考資料（会社概要）

会社名	株式会社マルマエ（Marumae Co., Ltd.）	
設立	1988年10月	
資本金	12億4,115万円（2025年5月31日現在）	
代表者	代表取締役社長 前田 俊一	
連結子会社	株式会社KMX、KMアルミニウム株式会社	
従業員数 （連結）	596名 うち 臨時雇用者等156名（2025年5月31日現在） 他 派遣社員62名	
グループ 所在地	出水事業所 （本社）	〒899-0216 鹿児島県出水市大野原町2141番地
	高尾野事業所	〒899-0401 鹿児島県出水市高尾野町大久保 3816番41
	関東事業所	〒351-0014 埼玉県朝霞市膝折町2-17-15
	KMアルミニウム 株式会社 （本社 工場）	〒836-0067 福岡県大牟田市四山町80番地
グループ 事業内容	株式会社マルマエ ・精密機械、精密機器の設計、製造、加工、組立 ・精密機械部品の設計及び製作 ・産業及び医療機械器具の設計、製造、販売 ・精密機械部品及び機械装置の点検、修理 ・ソフトウェアの開発、販売 ・製缶工事 ・配管工事 ・運送業務 ・不動産の賃貸	
	KMアルミニウム株式会社 ・アルミニウムのインゴット、ビレット、スラブ、合金の製造・販売 ・高純度アルミニウム地金の製造・販売 ・建具・板金工事業 ・前各号に付帯関連する一切の事業	

発行済株式総数		13,053,000株
単元株式数		100株
株主総数		10,564名
大株主 （普通株式）	前田 俊一	4,840,311株
	日本マスタートラスト信託銀行 株式会社（信託口）	999,200株
	前田 美佐子	504,000株
	NOMURA PB NOMINEES LIMITED OMNIBUS-MAGIN （CASHPB）【常任代理人】	279,000株
	前田 良子	180,000株
	五十嵐 光栄	169,000株
	THE NOMURA TRUST AND BANKING CO., LTD. AS THE TRUSTEE OF REPURCHASE AGREEMENT MOTHER FUND （常任代理人）	167,000株
	BNP PARIBAS LUXEMBOURG/2S/JASDEC SECURITIES/UCITS ASSETS （常任代理人）	146,027株
	マルマエ共栄会	108,000株
	NOMURA PB NOMINEES LTD THEORIA MULTI-STRATEGY MASTER FUND （常任代理人）	104,800株
（注）自己株式が390,706株あります。 （2025年2月28日現在）		

注意事項

本資料に掲載された情報、及び、口頭によって説明された実現していない内容に関しては、ある一定の仮定の元に予想された見通しであり、当グループ経営陣の判断など不確定要素を含んでおります。

本資料は、株主・投資家などの皆様に当グループの現況と経営方針をご理解いただくために作成されたものであり、利用者に対して、当社株式の購入・売却など直接的な投資判断を提供するものではありません。投資に関しての責任は負いません。

数値などの情報には注意をはらっておりますが、掲載の内容については未監査の数値も多く、確度を保証するものではありません。また、掲載された情報、またはその誤りについて、その理由に関わらず、当グループは一切責任を負うものではありません。

お問い合わせはこちら

株式会社マルマエ 管理本部管理部人事・企画課 IR担当

TEL 0996-68-1140 FAX 0996-68-1151

Mail ir@marumae.com

▲ 出水事業所

〒899-0216 鹿児島県出水市大野原町2141番地

<https://www.marumae.com/index.html>

道を究め、未知に挑む。

marumae



道を究め、未知に挑む。

marumae

